

こすげ
小菅 慶子さん
(葛生西二丁目)

キラリ★話題の「ひと」



○プロフィール

1985年生まれ。日本電子専門学校卒。姉妹漫画家「いちごとまるがおさん」の姉であり代表。栃木県民マンガ「負けるな!ギョーザランド!!」で栃木の良さを面白おかしく紹介している。

マンガを通して伝えたいこと

マンガを読んでつい時間忘れてしまった経験のある方は多いと思います。そんな大人も子どもも惹きつけるマンガを制作して栃木県の魅力を伝えたいのが、今回紹介する小菅慶子さんです。小菅さんは小さい頃から絵を描くことが好きで、現在はマンガの制作のほか、グラフィックデザインや映像制作など幅広い分野で活動されています。「ありのままに好きなことで生きることをもっと」、息をするように作品やデザインを制作し、面白いクリエイティブをしたい、見せていきたい」と熱い思いを語ります。

そんな小菅さんが、マンガを通して栃木県の魅力を発信していきたいと、8月下旬から栃木県民マンガ「負けるな!ギョーザランド!!」の連載を開始しました。2年前の魅力度ランキングで栃木県



▲「負けるな!ギョーザランド!!」の1ページ

が最下位となったことも起爆剤となり、みんなが手軽に読めるマンガを通して、楽しみながら栃木県の魅力を伝えたいと奮起して制作しています。作品の内容は、栃木の神「チャオズ」がイチゴの天使「イチマル」と共に、県内の名所やグルメ、風習などを面白おかしく紹介するものです。「ネットなどで簡単に情報を得られる時世ですが、この作品を読むことで初めて得られる情報を読者に提供していきたい。新たな発見があるような作品にしていきたい」と意気込んでいます。

今後については「連載中の作品に佐野をテーマとして取り上げ、皆さんが初めて知る情報をお届けしたいと思っています。楽しみにしてお待ちください。将来的にはアニメ化となり、より多くの人に作品を知ってもらい、私の創ったキャラクターが長く愛されてくれると嬉しいです」と話してくれました。皆さんもぜひ読んでみてください。

(市民記者 飯田瞬)



▲「負けるな!ギョーザランド!!」はこちら

市長からのメッセージ

駅前広場もイルミネーションに彩られ、早いもので今年も残すところ1カ月となりました。今年を振り返りますと、公約として皆さんにお約束させていただいた事業をいくつもスタートさせられた年となりました。

具体的には、お子さんの保育料を第2子から無償化し、高校3年生までの医療費無料化を今年4月から始めることができました。そしてリカレント教育を含めた生徒や学生への資格試験受験料の全額補助についても開始し、10月末までに94件の申請を受け付けております。その他、市内の市立・県立・私立学校が義務教育に係る共通する諸課題について協議し、相互に連絡調整を図る「公私教育連絡協議会」を立ち上げ、夏休み期間中に教員同士の研修会を実施したほか、本市のキャリア教育を推進するための「キャリア教育推進事業」についても始動することができました。

また、9月には本市4つ目のインターチェンジとなる出流原スマートインターチェンジが開通し、今まで以上に本市の高速交通の利便性が向上しました。本市には、その利便性を生かした内陸の港「佐野インランドポート」もあり、出流原PA周辺総合物流開発整備として新たな産業団地の造成も手がけております。今後も本市の強みを最大限に生かしたまちづくりをしつかり進めていきたいと思っております。

新型コロナウイルスも再び増加傾向にある中で、忙しい年末を迎えます。皆さん、体調に気を付けてお過ごしください。

金子裕

今回の表紙 「しっくいトイレの壁をリニューアル」 令和4年11月15日撮影

天明小学校6年生が卒業記念として、校庭の屋外トイレの壁をしっくいで塗り直しました。完成後の写真は右の二次元コードをご覧ください。





新しいサロンスペースの誕生！

茶

席サロンスペース「馬歩路亭」がオープンしました。ホテルサンルート佐野のロビーの一角をまちなか活性を目的として、市民が多目的に使えるスペースとして提供されたものです。

これまでに、栃木県女性の海外研修第1回参加者から当時の苦労話などを聞く「ようこそ先輩」、仏像彫りに魅せられた方の「仏像彫刻作品展」、足利市徳蔵寺の「五百羅漢像写真展」など開催しました。皆さんプロではありませんが、身近な方たちの発表は親しみやすく、どれもパワーがもらえるような企画です。

講座や展覧会の他に、火曜日から木曜日の午後には気軽にお抹茶を頂ける茶室サロンを開設し、ときには佐野市出身の人間国宝である田村耕一作のお茶碗で頂ける企画もあるそうです。

次はどんな方が発表してくれるのか、小スペースながら、佐野の文化の発信地となってくれそうで楽しみです。

そんな街中ほっとサロンを、ちょっとのぞいてみませんか？

(市民記者 永倉文子)



▲講座の様子

栃木県高校駅伝競走大会で佐野日大高校が5年ぶりに優勝

男

子第75回・女子第37回栃木県高校駅伝競走大会が11月3日(木・祝)に市運動公園周辺で行われました。女子の部では、宇都宮文星女子高校が5区間全区間を区間賞独占の走りで他校を圧倒し、

3年連続5度目の優勝を飾りました。男子の部では、最終7区でトップに12秒遅れて2位で最終ランナーに襷をつないだ佐野日大高校が会心の走りでアンカー勝負を制し逆転、5年ぶりの優勝を果たしました。男女の優勝校は12月25日(日)に京都で開催される全国高校駅伝競走大会に出場します。



▲男子の部で優勝した佐野日大高校

佐野弁
ばんたい

敬語の「ガンス」は、すっかり消えてしまった
—敬語その1—

栃木弁は敬語がないとか「無敬語地帯」であるなどといわれてきました。佐野弁も同じです。敬語を用いないと、ぞんざいであらあらしい感じがえします。ではなぜ佐野弁には敬語が発達しなかったのでしょうか。そこで佐野の歴史をさかのぼってみましょう。かつて佐野の住民の多くは田畑を耕しながら生計を立てていました。藩政によるきびしい圧政もなかったし、身分や地位による威圧もなかったことから、さして敬語を用いる必要はなかったのでしょうか。でも、敬語がないわけではありません。その当時の敬語とその意味・用法などについて述べてみましょう。

明治の人たちがよく使っていた方言に「ノマッセ(飲んでください)」、「ミセベケ(見せましょう)」があります。この「セ」と「ゲ」は、いずれも「いねいな意を表す敬語です」。この他に、最近まで使われていた敬語に、「いねいな意を表す「ガンス」があります。明治や大正生まれの人たちはよくあいさつことばに使っていました。朝には「オハヨガンス(おはようございます)」、日中の暑いときには「アツীগアンスねえ」、夕方には「オバンデガンス(ヤンス)」といい、祝い事には「オメデトガンス」などといいました。「ガンス」にはくです、くます、くごいますのように、ていねいな意味があります。ガンスは江戸時代の「ござんす」が変化したものです。昭和になっても使っていました。終戦後には徐々に衰えはじめ、ガンスに代わってデスマス・ゴザイマスが使われるようになりました。

(市民記者 森下喜一)

